
GAIA

巢高案山子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G A I A

【Nコード】

N 0 5 9 2 P

【作者名】

巢高案山子

【あらすじ】

彼は私たちのようにたくさんの表情を持ち、意思を持つ。

この宇宙で彼ほど『奇跡』という言葉が合うものがあるだろうか。

今日もガイアは、内側の目で様々なものを見ていた。

背中のところでは鯨がはねたり、

極寒の寒さの中ガイアの鼻の先まで歩いて登る人間。

足の裏で優雅に走る綺麗な白馬。

ガイアは内側の目で自分自身を見るのが好きだった。

外側の目は、綺麗に輝く仲間達で広がっている。

時々、どこから来たのかわからない小惑星の子供が走りまわってガイアにぶつかってしまいが、そんなことは慣れっこだ。

そんな時、素敵な笑顔でガイアに微笑みかけるルナが現れた。

ルナはガイアの恋人で、少し小柄で素敵な笑顔が特徴的でいつもガイアのそばにいた。

ルナの笑顔はガイアも、ガイアの中で生きているもの達でさえも不思議な気持ちにさせる。

ルナの笑顔はこの前とは違う満面の笑み。

ガイアの肩にいた男が狼に化けてしまうほど素敵だった。

ルナとガイアは太陽の周りをワルツ踊りながら回るのが日課だった。そのワルツを見て太陽が微笑む。明るい二人が大好きだ。

あまりにも太陽が微笑むので、

ルナはガイアの鼻に積もった雪が溶けてしまうのでは無いかといつも心配だった。

(後書き)

読んでいただいた方、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0592p/>

GAIA

2010年11月22日01時46分発行